

第 99 号 (No.99)

2026 年 3 月 2 日

Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

目 次

〈理事会報告 (2025 年 11 月 23 日)〉

■ 審議事項

I 大会校、委員会報告

II 事務局より提案

■ 報告事項

III 事務局報告

IV その他

〈「第 16 回研究集会」オンライン開催 (公開) のお知らせ〉

〈事務局からのお知らせ〉

理事会報告（2025年11月23日）

出席者：石井理事、石田理事、磯田理事、上地理事、上野理事、奥村理事、川地理事、木原理事、唐木理事、金馬理事、草原理事、黒田理事、子安理事、澤田理事、柴田理事、高橋理事、田村理事、中野理事、西岡理事、二宮理事、根津理事、樋口理事、松下代表理事、的場理事、森理事、吉田理事、香川大学附属高松小学校、藤井浩史会員（花園大学）、磯崎哲夫会員（広島大学）

（計 29 名）

事務局：竹川事務局長、富士原理事、次橋幹事（計 3 名）

定例理事会が、2025年11月23日（日）9時30分から12時10分まで、Zoomを用いたウェブ会議形式で開催された。32名（うち理事30名、事務局3名※2名は理事をかねる、2025年度大会開催校より1名、2026年度大会開催校より1名）の参加があった。

審議に先立ち、松下代表理事より、開会の挨拶が述べられた。

■ 審議事項

I 大会校、委員会報告

1. 第37回広島大学大会について

はじめに、磯崎大会実行委員長より、挨拶と概要の説明が行われた。続いて吉田大会実行委員会事務局長より、資料に基づいて準備状況、今後の予定等についての報告が行われた。

公開シンポジウムについてはオンラインと対面のハイフレックス方式で行い、タイトル案として『『価値ある知識』とこれからのカリキュラム』が示された。その後、理事から公開シンポジウムのテーマに関して提案（学習指導要領改訂との関係をどこかで示すか、例えば副題に学習指導要領との関係を入れてはどうか）や、懇親会の規模・場所・時間・内容等についての質問が出され、意見交換が行われた。

会員の参加をしやすくするために、課題研究も会員限定のハイフレックス形式としてはどうかという意見も出されたが、司会者を含めた運営側の人的負担が大きくなるため、ひとまず実行委員会内で可否の検討を進めることとなった。

2. 国際交流委員会

倉本委員長欠席のため、上野委員より、資料に基づいて、学会紀要「海外カリキュラム研究情報」執筆依頼、次回大会の課題研究の企画、新プロジェクトについて、の3件の報告が行われた。

新プロジェクトは、2026年2月～3月に、「国際的に発信する研究活動セミナー（仮）」をZoomにて開催予定であることが報告された。松下代表理事より、発表予定者のうち2名の若手研究者

が「未定」となっていることについて、学会が登壇依頼する若手発表者にやや偏りが見られる傾向があることから、より幅広い若手に機会を提供するために理事会で意見を求めたいという説明があり、続けて議論が行われた。いくつか意見が出されたが、日程（広報・若手育成委員会の2月14日または15日の「若手育成セミナー」とのバッティングを避ける）と候補者の検討については、引き続き委員会内で行うこととされた。

3. 第36回花園大学大会について

はじめに、藤井大会事務局長より、資料に基づいて、収支決算を含めて総括的な報告が行われた。続いて、磯田大会実行委員長より、準備・当日の運営に至る協力に対し、事務局・関係協力校に謝辞が述べられた。

本大会当日の自由研究発表において、プログラム、要旨集、および当日資料において発表者名やタイトルが異なって変わっていたために、当日、学会事務局判断で取り消し扱いとなった発表があったこと（ただし、発表そのものは行われたこと）について、詳細な説明が行われた。エントリーの際の誤解によるものであり、悪意あるものではなかったことが確認されたが、再発防止のためエントリーのあり方やタイトル変更をできなくするなど申込システム上の課題についてはガリレオ社に改修を依頼済みであることが、竹川事務局長より報告された。その後、本件に関して意見交換が行われ、発表者や題目・発表内容が要旨集から変わっている場合は発表を不可とすること、発表当日には司会者に発表資料と要旨集に相違がないかチェックするように促すことが確認された。また、後日アーカイブ化する場合は発表が行われなかったことを追記することも確認された。

4. 学会賞委員会

木原副委員長より、資料に基づいて、優秀発表賞ならびに研究奨励賞についての報告が行われた。まず、優秀発表賞については、資格確認、第一段投票、第二段投票、審査委員会の開催を経て候補者を決定したことが説明され、承認された。次に、研究奨励賞について、現在6名の候補者から理事による第一段投票により2名の候補者に絞られたこと、続く審査委員会での検討に入ることが説明され、その進行が承認された。

この他に、今回の優秀発表賞の候補者確認段階において、資格をもたない候補者が複数エントリーしていた件についても説明がなされた。会員歴2年以上8年以下という条件が大会システム画面上で明示されていなかったことが要因であったこと、システム改修についてガリレオ社に依頼済みであることが報告された。これに関連して、松下代表理事より、研究奨励賞は個人に対して授与されるものであることから一度きりの機会としてはどうか、一方、優秀発表賞は発表に対してであるから複数回受賞があってもよいのではないか、という提案がなされ、今後委員会内で検討を進めることとされた。

5. 紀要編集委員会

澤田委員長より、資料に基づいて、委員会の開催状況、投稿論文の査読の状況、今後のスケジュールについての報告が行われた。とくに、図書紹介の対象図書・執筆者紹介が遅れていることのお詫びと、修正スケジュールについての説明があった。

この他に、委員会において、査読のB評価及びC評価を伝える文章にやや曖昧な表現があったためにこれを明確化し、今後の連絡文の修正をガリレオ社に依頼したことの報告があった。

最後に、委員会において論文フォーマットを含めた投稿要領規程の改定を検討していることが説明され、議論が行われた。ページ数の追加やヘッダーに論文名を記載すること、なるべく紀要の印刷体裁と同じフォーマットを維持する等の要望が理事から出され、委員会で検討のうえ、次回の理事会でフォーマット案を含めて提案することが確認された。

6. 研究委員会

上地委員長より、資料に基づいて、春の研究集会、次回大会の二つの課題研究についての説明が行われた。

研究集会については、テーマを「外国にルーツがある子どもへの公立学校における支援（仮）」、オンライン開催、登壇者・開催時期は検討中であることが説明された。次回大会の課題研究は、テーマを「(1) 学校教育におけるテクノロジー活用の現状と課題（仮）」と「(2) 人口減少社会における課題に学校カリキュラムは貢献しうるのか（仮）」としたことが、それぞれの登壇候補者名（一部未定）を挙げつつ報告された。これを受けて、主に登壇候補者についての意見交換が行われた。

7. 広報・若手育成委員会

唐木委員長より、資料に基づいて、秋のセミナーの現状、第5回若手育成セミナーの内容、次回大会の課題研究についての説明が行われた。

第5回若手育成セミナーについては、2月14日（土）または2月15日（日）のいずれかの日程で、登壇予定者の都合により12月中旬に決定したいとの希望が述べられ、他の委員会の企画とも日程を調整しつつ進めることが確認された。西岡委員より、登壇者のうちの1名に同門の候補者2名のいずれかを考えていることについて説明がなされ、理事に意見を求めたが、意見はなく委員会に一任されることとなった。

次回大会の課題研究については、テーマを「カリキュラムと“ことば”：体験や生活を基とした授業・学校づくり」とし、内諾を得ている登壇者のスケジュールの関係上、6月21日（日）に設定をしたいとの希望が述べられた。今後、関係委員会間で調整のうえ、次回理事会までに確定させることが確認された。

松下代表理事より、各委員会で企画を意欲的に考えてくれることは有難く、貴重な機会の創出がなされているが、一方で各委員会担当者が業務過多になっていないかという懸念が述べられ、今後考慮することとされた。

II 事務局より提案

1. 2026年度理事・代表理事選挙 選挙管理委員の指名（案）について

竹川事務局長より、3名の候補者、吉田茂孝会員（大阪教育大学・前回選挙管理委員から継続）、次橋秀樹会員（京都芸術大学・新規）、山下大喜会員（山口大学・新規）が提案され、承認された。

2. ガリレオ社より 2026年度からの委託契約料改定の連絡について

竹川事務局長より、ガリレオ社より委託契約料改定の連絡（2025.8.6）があつて、2026年度は全体で年間約40万円の負担増の見込みになることが報告された。人件費の上昇や学会予算の状況に鑑み、これを受け入れたうえで同社に継続して管理を依頼することを事務局からの提案とし、承認された。

■ 報告事項

III 事務局報告

竹川事務局長より、資料に基づいて、会員現況報告、会費納入率、入大会の状況、寄贈図書、中間会計について報告が行われた。

IV その他

とくになし

日本カリキュラム学会

第16回 研究集会のお知らせ

代表理事: 松下 佳代
研究委員会委員長: 上地 完治

テーマ

学校における外国にルーツのある子どもへの支援

趣旨

日本カリキュラム学会では、2024年大会と2025年大会において「多様な学び」をテーマにした課題研究が企画され、多様な学びの実践やその背後にある理念、構造、あるいは問題について議論されてきた。今回の研究集会もこの研究関心を継承し、とりわけ、外国にルーツのある子どもたちへの学校教育における支援について検討してみたい。この問題は、令和3年の中教審答申「『令和の日本型学校教育』の構築をめざして」においても、今日の学校教育が直面している「子どもの多様化」という課題の一例として取り上げられており、日本国籍を有する児童生徒も含めて、彼ら／彼女らに対する日本語指導のみならず、キャリア教育や相談支援、ルーツに関わる言語や文化への支援の必要性が指摘されている。また、令和7年に文部科学省総合教育政策局がまとめた外国人児童生徒等教育の現状と課題に関する資料をみると、指導過程や指導体制の実例が紹介されており、日本語指導担当教師の指導力向上の必要性などが示されている。

本研究集会では、まず、大阪教育大学の臼井智美会員に、外国にルーツのある子どもへの教育の内容や指導体制、教育活動上の課題についてご報告いただく。次に、アメリカ人とアジア人の両親を持つ「アメラジアン」(Amerasian)を対象とした民間教育施設「アメラジアンスクール・イン・オキナワ」について、その成立過程や社会歴史的背景、そして地域の公立学校とアメラジアンスクールとの関係について、琉球大学の野入直美氏にご報告いただく。

日時: 2026年3月14日(土) 13:00-16:00

(※15:30~16:00はオンラインで交流会を実施します)

参加方法: オンライン (Zoom ミーティング又はウェビナー)

※12:40頃から入室可。

報告者:

○臼井 智美会員 (大阪教育大学)

○野入 直美氏 (琉球大学)

司会・コーディネーター

上地完治(琉球大学)、子安潤(愛知教育大学名誉教授)

参加費 無料(学会員でない方にもご参加いただけます)

参加申込について

参加希望者は下記 URL (Google フォーム) より、「3 月 11 日 (水)」までにお申し込みをお願いします。申込者には登録していただいたメールアドレス宛に参加方法のご案内を 3 月 12 日 (木) にお送りします。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfso8s2kNuzb8hUj9H6SLQY-Qj3-aH58xMaoF4G3ssjXy9eXw/viewform?usp=publish-editor>

問い合わせ先:

コーディネーター 上地完治 (kanji あっと cs.u-ryukyu.ac.jp) ※「あっと」は@に変換

事務局からのお知らせ

1. 会員現況概要 (2025年6月5日時点)

■会員総数 699名 (一般会員 612名、学生会員 81名、団体会員 6名)

※連絡先不明者 1名、未納退会希望者 7名、会員一時資格停止者 24名を含む。

(2024年度11月理事会報告：会員総数 705名 (一般会員 616名、学生会員 83名、団体会員 6名))

■会費納入率 (2025年11月11日時点)

2025年度：完納 574名 未納 125名 計 699名 82.1% (切り捨て)

※連絡先不明者 1名、未納退会希望者 7名、会員一時資格停止者 24名を含む。

(2024年度11月理事会報告：完納 563名 未納 142名 計 705名 79.8% (切り捨て))

■新規入会者(2025年6月6日～2025年11月11日) 12名

	入会年月日	氏名	所属	会員種別	推薦者
1	2025/06/03	石垣 雅也	北海道教育大学釧路校	正会員	川地亜弥子
2	2025/06/11	西岡 毅	大阪市立港晴小学校	正会員	陸奥田維彦
3	2025/06/12	朝倉 恵	関西大学大学院	学生会員	山住勝広
4	2025/06/16	甲斐 彩乃	筑波大学人間総合科学学術院	学生会員	梅津静子
5	2025/07/04	井戸 浩太	広島大学大学院	学生会員	川口広美
6	2025/07/16	坪松 真央	所属非公開希望	正会員	蔵田實
7	2025/07/29	松村 英治	港区立赤羽小学校	正会員	久野弘幸
8	2025/08/08	高橋 武志	早稲田大学大学院	学生会員	根津朋実
9	2025/08/31	大澤 一司	神戸市教育委員会事務局	正会員	安藤福光
10	2025/09/01	藤原 由佳	広島大学	正会員	吉田成章
11	2025/10/07	亀田 泰史	玉川大学	正会員	遠藤みゆき
12	2025/11/07	森寄 章代	堺市立登美丘東小学校	正会員	木原俊行

■退会者(2025年6月6日～2025年11月11日) 1名

	退会日	会員名	所属	会員種別
1	2025/10/03	神林 信之	鎌倉女子大学	正会員

2. 寄贈図書等一覧 (2025年6月6日～2025年11月10日到着分)

著者名	タイトル	出版社等	発行日	受領日
森本洋介	子どもたちのクリティカルな思考を育む メディア・リテラシー教育の理論と実践	ミネルヴァ書房	2025.9.20	2025.9.17
日本教師教育学会	日本教師教育学会年報第34号 〔実践研究〕を問う	学事出版	2025.9.20	2025.9.21

3. 会計途中報告について

日本カリキュラム学会
第36回大会年度(2025年度)中間報告書
(2025年4月1日～2025年9月30日)

収入の部

項目	予算額(円)	実績(円)	
学会年会費	5,000,000	4,448,000	
入会金	80,000	48,000	
学会誌代・雑収入・利子等	30,000	31,658	
第36回大会収入	1,146,000	1,755,600	
前年度繰越金	12,190,629	12,190,629	当期収入
合計	18,446,629	18,473,887	6,283,258

支出の部

項目	予算額(円)	実績(円)	
第36回大会支出	1,810,000	1,983,655	
第34号紀要刊行費(含む発送費、J-STAGE掲載経費)	700,000	657,033	
学会賞費(研究奨励賞および優秀発表賞)	60,000	60,000	
会合費(交通費他)	300,000	55,080	
事務局経費	200,000	120,158	
事務局外部委託費	2,000,000	855,699	
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	0	
教育関連学会連絡協議会会費	5,000	5,000	
各種委員会経費			
紀要編集委員会	100,000	0	
国際交流委員会	100,000	0	
研究委員会	300,000	81,578	
広報・若手育成委員会	300,000	85,531	
学会賞委員会	100,000	0	
(小計)	900,000	167,109	
学会ホームページ及び学会システム更新	300,000	84,700	
電子投稿システムの運用経費	440,000	66,000	
団体会員勧誘活動	120,000	0	
予備費	200,000	0	当期支出
次年度繰越金	11,361,629	14,419,453	4,054,434
合計	18,446,629	18,473,887	当期収支差額
(次年度繰越金のうち、1,000,000円は40周年記念事業積立金に充当)			2,228,824

4. 令和7年度（2025年度）分会費納入のお願い

今年度分の年会費が未納の会員の方は、納入をお願い申し上げます。2025年11月11日時点での2025年度会費の納入率は82.1%です。納入促進に、会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。また、前年度（2024年度）分までの年会費が未納の会員の方におかれましては、未納分の年会費の納入もあわせてお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく（株）ガリレオ・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

（年会費：一般8,000円、学生5,000円、団体10,000円）

5. 会員情報更新のお願い

学会ホームページから会員情報の更新を随時お願いいたします。学会ホームページでは、会員専用ページとして「会員名簿検索システム」を導入しています。会員相互の連絡や情報交換のためのシステムですので、所属先の情報については可能な範囲で公開していただきますようお願いいたします。

また、学生としての所属がなくなった場合は、一般会員への変更をお願いいたします（こちらは学会ホームページの「マイページ」の変更と併せて学会事務局までご連絡ください。

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2丁目39-2-401

（株）ガリレオ学会業務情報化センター内

TEL 03-5981-9824 FAX 03-5981-9852 ※電話受付 平日11:00～16:00

E-mail : g050jscs-support@ml.gakkai.ne.jp

【上記以外の学会運営に関する問い合わせ先】

〒448-8542

愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1 愛知教育大学 竹川慎哉気付

日本カリキュラム学会事務局

E-mail : jscsstaff@gmail.com

【学会ホームページ】

<https://jscs-info.jp/>

※2024年4月10日に学会ホームページのドメイン（URL）を移転しました。